

診療記録を管理し、 医療の質向上と病院経営に活用する



OB VOICE

将来は国際的に働くことも
視野に入れ、業務と知識の
向上に努めています

入院される方の案内業務、入院会計、レセプト(診療報酬明細書)点検などを行っています。大学で学んだ知識を最大限生かせると思いこの仕事を選びました。大学での診療情報管理士の資格取得に伴う医学基礎や医療管理についての講義は、仕事で役に立っています。現在は、基本的な医事の知識を深める日々ですが、医療管理と語学の知識向上に努め、将来的には国際的な医療機関での勤務や医療通訳として働いてみたいと思っています。



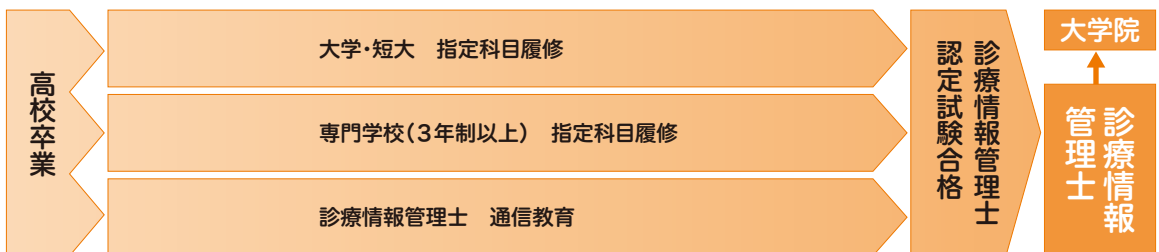
神田 瞬さん
国際医療福祉大学
三田病院 勤務
赤坂心理・
医療福祉マネジメント学部
医療マネジメント学科 卒業

どうすればなれる？

診療情報管理士認定試験に合格することが必要です。

受験資格を得るには…

日本病院会が認める大学、短大、専門学校(3年制以上)において指定の単位を修得する。日本病院会による診療情報管理士通信教育を受講し修了する。などの方法があります。



どんな仕事？

カルテの活用により医療と経営に貢献

治療内容・病状・検査記録などが書かれた診療記録の管理・診療情報の分析を行います。これにより、診療内容の無駄を明らかにして医療の質を高めるとともに、病院経営の改善につなげます。また、患者さんの求めによりカルテを開示し、内容をわかりやすく説明したり、医師などが行う調査・研究をサポートしたりします。

どこで働く？

毎日、多数の患者さんが利用する
病院や医療関連企業

- 病院
- 診療情報分析会社
- 医療関連のソフトウェア会社

など

仕事の展開と将来の展望

病院の経営戦略に欠かせない専門職

現在、医療現場では、カルテの電子化が進むなど、データの管理・活用が大きな課題となっています。診療情報管理士はあらゆる診療情報を扱う専門職であり、診療記録の管理者を配置することで病院の収入の面で優遇されるなど、その役割は増大しています。多くは病院で活躍していますが、病床数や外来数が多い大規模な病院になるほど、役割の重要度は増していきます。